

次期「広島県 教育に関する大綱」に盛り込む項目（案）

広島で学んで良かったと思える 広島で学んでみたいと思われる 日本一の教育県の実現

～ 一人一人が、生涯にわたって主体的に学び続け、
多様な人々と協働して新たな価値を創造する人づくり ～

1 乳幼児期における質の高い教育・保育の推進

- ✓ 乳幼児期における教育・保育は、生涯にわたる人格形成の基礎を培うとともに、その後の学校教育における生活や学習の基盤となる役割を担うものであり、家庭や幼稚園、保育所、認定こども園等、子供が育つ環境に関わらず、全ての子供が健やかに成長できるよう、乳幼児期から質の高い教育・保育を提供することが重要である。
- ✓ 平成 29 年 2 月に「遊び 学び 育つひろしまっ子！」推進プランを策定し、本県の目指す乳幼児の姿及び乳幼児期の教育・保育の基本的な考え方を示すとともに、今後の施策の方向性と取組内容を明らかにした。
- ✓ 平成 30 年 4 月に乳幼児教育支援センターを県庁内に設置し、幼稚園・保育所・認定こども園等における教育・保育内容の充実や家庭教育への支援などの施策を総合的に推進する体制を整備した。
- ✓ 本県の目指す乳幼児の姿や乳幼児期の教育・保育の基本的な考え方について園・所の理解を深め、実践につながるよう支援する必要がある。
- ✓ 本県の乳幼児期の教育・保育の基本的な考え方について保護者の共感的な理解を促し、保護者の子育てに対する自信や安心感を醸成していく必要がある。

【小項目】

- ・本県における質の高い教育・保育の推進

2 「主体的な学び」を促す教育活動の推進による、これからの社会で活躍するために必要な資質・能力の育成

- ✓ これからの先行き不透明な社会においては、自ら深く考え、知識や情報を統合して新しい価値を創り出す力、多様な他者と協働・協調できる力を有する人材が求められる。
- ✓ このため、生涯にわたる学習の基盤を培う初等中等教育段階においては、基礎・基本の確実な定着に向けて、「確かな学力」、「豊かな心」、「健やかな体」（知・徳・体）をバランスよく育むとともに、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質能力（思考力、判断力、表現力等）を育成することが重要である。
- ✓ こうした「生きる力」を確実に身に付けさせるため、本県では全国に先駆けて「これからの社会に必要な資質・能力の育成を目指した主体的な学び」を促す教育活動、すなわち「学びの変革」に取り組んできた。
- ✓ 一方で、IoTやAI、ロボティクスをはじめとするデジタル技術の進展・高度化など社会情勢は着実に変化しており、このような Society5.0 時代の社会においても活躍できる人材の育成に向けて、全県的な「学びの変革」を更に加速していく必要がある。
- ✓ また、このような変化が激しく将来が展望しにくい状況において、社会的・職業的自立を実現するためには、一人一人が自己の生き方や働き方について考えを深め、職業生活や日常生活に必要な知識や技能、技術を主体的に身に付けていくことが重要である。

【小項目】

- ・「基礎・基本」の徹底
- ・初等中等教育段階における「主体的な学び」を促す教育活動
- ・夢や希望の実現に向けたキャリア教育の充実

3 一人一人の多様な個性・能力をさらに生かし、他者と協働しながら新たな価値を創造していくことができる力の育成

- ✓ 子供たち一人一人が生涯にわたって自己の能力と可能性を最大限高め、多様な個性・能力をさらに伸ばしていくためには、全ての学校段階において、個々の教育的ニーズを踏まえた、基礎・基本の確実な定着や「主体的な学び」の創造に取り組んでいく必要がある。
- ✓ このような学びを実現するうえで、多様な学習機会と場の提供を通じた、「個別最適な学び」がより一層重要である。
- ✓ 本県の人口が減少する一方で、外国人人口は増加傾向にある。今後、本県が持続的に発展していくためには、国籍や民族の異なる人々が、互いの違いを認め合い、対等な関係を築こうとしながら生きていける社会（多文化共生社会）を構築していく必要がある。
- ✓ このような社会において、多様な価値観の受容については、様々な場面で多彩なルーツを持つ人々と出会う中で、自分とは異なる他者の個性や考え方、その背景にある伝統、文化を柔軟に受け入れていくことが重要である。
- ✓ 今後、ますます変化・複雑化する社会のニーズに応じた多様で厚みのある人材層の形成に向け、より一層の学校の特色づくりの推進や教育の質的向上など、県立学校の体制整備を進めていく必要がある。

【小項目】

- ・多様で厚みのある人材層の形成
- ・「個別最適な学び」の推進
- ・多様な価値観の受容
- ・県立学校の体制整備
- ・学校教育以外での取組

4 今後の社会経済環境の変化に対応できる高度な資質・能力を有する人材の育成

- ✓ 人口減少やグローバル化、デジタル技術の進展など、社会経済環境が大きく変化する中、これからの社会で活躍するために必要な資質・能力を備えた人材を継続的に輩出することが求められている。
- ✓ このため、高等教育段階においては、これまで重視されてきた専門分野の知見の修得にとどまらず、初等中等教育との一貫性を保ちつつ、文理に関わらず、様々な分野の知識・スキルを身に付けた上で、それを統合的に応用して、解のない課題に果敢にチャレンジし、新たな価値を創造できる人材の育成に取り組む。
- ✓ 18 歳人口が減少する中、こうした新たな教育に個々の大学で対応することは負担となるため、それぞれの強みや特色を活かしつつ、各大学の連携・協力のもと、県全体として、高等教育機能の充実を図り、県内外から多様な人々が集う魅力ある高等教育環境の構築を目指していく。

【小項目】

- ・「新たな教育モデル」の実現
- ・大学連携の推進

5 教育上特別な配慮を必要とする児童生徒等への支援

- ✓ 次代を担う子供たちが、生まれ育った環境や障害の有無などにかかわらず、自らの能力と可能性を最大限高め、これらの能力や可能性を社会において発揮できるよう、多様なニーズに対応した教育機会の提供に取り組んでいく必要がある。
- ✓ 例えば、障害の有無、学習のつまずきや外国人児童生徒に対する日本語指導などの学習支援、経済的支援、さらには不登校や高校中退など、多様な観点からのニーズに対応した教育機会の提供が必要である。

【小項目】

- ・「学びのセーフティネット」の充実
- ・教育委員会と関係機関が連携した支援
- ・障害のある幼児児童生徒への支援

6 教職員の力を最大限に発揮できる環境の整備

- ✓ 「広島で学んで良かったと思える日本一の教育県」を実現していくためには、高い倫理観と豊かな人間性、子供に対する教育的愛情と教育に対する使命感などを有した教職員を採用していくとともに、教職員一人一人が持っている力を最大限に発揮し、教育活動に取り組むことができる環境の整備に向けて必要な資源を確保することが必要である。
- ✓ 教職員の資質・能力や専門性の向上に当たっては、主体的・対話的で深い学びを促す授業の実践に必要なファシリテーション能力やデジタル技術を活用した授業スキルなど、「学びの変革」をさらに加速させていくことを念頭に取組を進めていく必要がある。
- ✓ また、学校・教員が本来担うべき業務の効率的・効果的な実施や、学校における組織マネジメントの徹底による教職員の働き方に対する意識の醸成を図るなど、教職員の働き方改革を一層推進していく必要がある。

【小項目】

- ・教職員一人一人の力を最大限に発揮できる環境の整備・働き方改革の推進
- ・日本一の教員集団の形成

7 安全・安心な教育環境の構築

- ✓ 学校が子供たちにとって安全・安心な学びの場であるためには、暴力行為やいじめをはじめとする問題行動などの生徒指導上の諸課題について、警察などの関係機関とも連携の上、組織的な生徒指導体制及び教育相談体制を構築し、問題行動の未然防止に係る取組を充実させるとともに、自らの安全を守るための能力を育成する安全教育、安全管理、家庭・地域と連携・協働した学校安全に取り組むことが重要である。
- ✓ また、充実した教育活動を行い、十分な教育効果を上げるためにも、安全・安心な教育環境を整えることが必要であり、学校施設の老朽化への対応のほか、教育環境の質的向上等を図るための施設・設備の整備を進めていくことが重要である。
- ✓ さらに、頻発する大規模災害に対応した防災教育や、交通事故、犯罪等、安全上の課題に応じた対策を推進していくことが必要である。
- ✓ これらに加えて、安全・安心な学校環境を構築するためには、家庭と地域の連携により家庭教育の充実を図ることが重要であるが、近年の家庭環境の多様化に伴い、子育てに係る不安や孤立を感じている家庭があるなど、家庭教育を行う上での課題もあることから、地域全体で家庭教育を支える仕組みづくりが必要である。
- ✓ 近年、子供たちを取り巻く環境や学校の抱える課題が複雑化・困難化する中においては、コミュニティスクール（学校運営協議会制度）と地域学校協働活動を一体的に推進していくなど、学校と地域が連携・協働しながら、社会総掛かりでの教育の実現に取り組むことが重要である。

【小項目】

- ・学校における安全・安心の確保
- ・充実した教育活動を行うための環境整備
- ・家庭教育への支援
- ・学校・家庭・地域が連携した教育の推進

8 生涯にわたって学び続けるための環境づくり

- ✓ 人生100年時代においては、全ての人が生涯を通じて、自らの人生を設計し、学び続け、学んだことを生かして活躍できるようにすることが必要である。
- ✓ このため、学校や公民館、図書館等の社会教育施設をはじめとする学びの場を拠点として、地域の学びを支える人材を育成するとともに、関係機関と連携・協働しつつ、家庭や地域の教育力の向上を目指した学習機会の充実を図ることが重要である。
- ✓ また、スポーツや文化芸術を通じた活動や交流は、地域コミュニティの形成や活性化及び地域アイデンティティの醸成に大きな役割を果たしており、地域の誰もが生涯にわたり、興味、関心、適性などに応じて、気軽にスポーツや文化芸術に親しむことができる機会や環境を整えることも重要である。
- ✓ さらに、人生100年時代を迎え、「教育・仕事・老後」という3ステージの単線型人生から、複数のキャリアを渡り歩くマルチステージの人生に変化する中では、今後の社会システムの変革を踏まえた社会人のスキルアップや個人の学び直しなど、県民や企業等のニーズに対応したリカレント教育を享受できる環境を整えていくことが必要である。

【小項目】

- ・生涯学習を進める環境づくり
- ・スポーツ・文化に親しむ環境づくり
- ・リカレント教育を進める環境づくり